

Press Release

2023年10月11日

報道関係者各位

アステラス製薬、BioLabs、三井不動産 つくばおよび柏の葉におけるライフサイエンス エコシステムの 発展に向けた覚書を締結

-アステラス製薬つくば研究センター内にオープンイノベーション拠点
「SakuLab™-Tsukuba」を開設-

アステラス製薬株式会社(本社:東京中央区、代表取締役社長CEO:岡村 直樹、以下「アステラス製薬」)、BioLabs Global, Inc.(本社:米国マサチューセッツ州、Founder and CEO: Johannes Fruehauf、以下、「BioLabs」)、三井不動産株式会社(本社:東京中央区、代表取締役社長:植田 俊、以下、「三井不動産」)は、つくばおよび柏の葉におけるライフサイエンスエコシステムの発展に向けた覚書を締結しました。本覚書に基づき三社は、2023年10月にアステラス製薬が同社の研究所の一つであるつくば研究センター内に新たに開設したオープンイノベーション拠点「SakuLab™-Tsukuba*」の推進で連携し、さらに、つくばおよび柏の葉と、その周辺地域において、オープンイノベーションの加速、ライフサイエンスエコシステムの発展を目指します。

BioLabsは、グローバルにライフサイエンス分野でシェアラボ施設、およびスタートアップ企業を支援するインキュベーションプログラムの運営をしており、本覚書に基づき、アステラス製薬に対して施設運営のノウハウを提供します。また、共同で利用するイノベーター向けのイベントを開催し、さらに、海外のライフサイエンス拠点とのコミュニケーション機会を提供する予定です。

三井不動産は、柏の葉で賃貸型ウェットラボ「三井リンクラボ柏の葉1」を運営しており、オープンイノベーションの支援を行っています。また、アステラス製薬は、三井リンクラボ柏の葉1内で、がん微小環境研究のオープンイノベーション拠点「TME iLab」を展開しています。本覚書に基づき両社は、つくばおよび柏の葉とその周辺地域におけるライフサイエンスエコシステムの発展について連携します。

アステラス製薬は、SakuLab™-Tsukubaにおいてすぐに使える実験施設を用意し、創薬ケイパビリティを生かしてイノベーションの創出を目指すスタートアップ企業やアカデミアなどの支援を行うほか、利用者同士、あるいはアステラス製薬の研究員とのネットワーク機会を提供します。

SakuLab™は、アステラス製薬のグローバルなオープンイノベーション拠点です。「咲く」と「桜」から、アイデアの種が成長し花開く場となるよう名づけられました。ここに集まる人々が新たな一歩を踏み出す出発点となること、様々なアイデアが行き交い、患者さ

んの毎日を変えるヘルスケアソリューションが生まれることへの願いがこの名前に込められています。

アステラス製薬の研究担当CSco(Chief Scientific Officer)である志鷹 義嗣は、「アステラス製薬は、これまでの研究で培った知識・経験や、海外ネットワークを、イノベーションに挑戦しているアカデミアやスタートアップにニーズに合わせて提供することで、革新的なアイデア・技術を共に育み、花開かせたいと考えています。私たちは戦略提携、共同研究講座の設置、オープンラボの展開など様々な方法で、アカデミアシーズやスタートアップの成長をグローバルで支援しています。今回の覚書締結により、今まで以上につくばや柏の葉の周辺地域が、イノベティブなアイデアと専門知識を融合させる起点となり、新たなヘルスケアソリューションの創出が加速されることを期待しています」と述べています。

BioLabs の Founder and CEO である Johannes Fruehauf は、「アステラス製薬および三井不動産と提携し、日本における BioLabs のグローバルネットワークを拡大できることを大変嬉しく思います。患者さんの生活の質を向上させる最先端のイノベーションの商業化を加速させるという共通の使命の下、つくば地域におけるライフサイエンスイノベーションのエコシステムを発展させるために協力していきます」と述べています。

三井不動産の柏の葉街づくり推進部長である山下 和則は、「柏の葉 TME iLab に続くアステラス製薬の拠点開設を心より歓迎いたします。柏の葉エリアでは公民学連携でスマートシティの構築が進んでおり、ライフサイエンス領域においてもアカデミアや企業が横断連携した医療・ヘルスケア関連の取り組みや研究開発シーズの社会実装を支援するコミュニティの形成等、イノベーションを生むエコシステムの構築が進んでいます。今回の連携・協力により、これらのコミュニティやエコシステムとつくばエリアの連携が加速されることを期待しています」と述べています。

本件によるアステラス製薬の通期(2024年3月期)連結業績への影響は織り込み済みです。

以上

* SakuLab™-Tsukubaについて

- ・ アステラス製薬のつくば研究センター敷地内に整備され、スタートアップやアカデミアなど、社外のイノベーターを受け入れるオープンイノベーション拠点です。拡張性に優れた施設・設備を用意しています
- ・ 利用するイノベーターには、実験施設のほか、アステラス製薬の創薬ケイバビリティを生かした研究のサポート、利用者同士、あるいはアステラス製薬研究員とのネットワーク機会が提供されます
- ・ 生物系の実験(P1/BSL2)、化学系の実験をすぐに開始できる実験設備を備えており、創薬研究全般に対応可能な施設の整備を予定しています。また、アステラス製薬研究員が施設や機器の使用等に関するサポートを行います
- ・ アステラス製薬のつくば研究センターでは、研究部門と製薬技術部門が低分子医薬品、抗体医薬、遺伝子治療、細胞医療などの研究開発に取り組んでいます。当研究センターが立地するつくば市は、内閣府がグローバルバイオコミュニティと認定する Grater Tokyo Biocommunity の一角を占め、30 を超える公的研究機関と2万人を超える研究者を擁しています

アステラス製薬株式会社について

アステラス製薬は、世界 70 カ国以上で事業活動を展開している製薬企業です。最先端のバイオロジーやモダリティ／テクノロジーの組み合わせを駆使し、アンメットメディカルニーズの高い疾患に対する革新的な医薬品の創出に取り組んでいます(Focus Area アプローチ)。さらに、医療用医薬品(Rx)事業で培った強みをベースに、最先端の医療技術と異分野のパートナーの技術を融合した製品やサービス(Rx+®)の創出にも挑戦しています。アステラス製薬は、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの「価値」に変えていきます。アステラス製薬の詳細については、(<https://www.astellas.com/jp/>)をご覧ください。

BioLabs Global, Inc.について

BioLabs は、サイエンスを基盤とする起業家の成長支援に特化した企業であり、起業家が科学を加速させ、事業を拡大し、世界に持続的なインパクトを与えることを可能にします。BioLabs の強みは、業界をリードするエコシステムの構築にあります。このエコシステムは、最高クラスの研究スペース、ビジネスサービス、経験豊富な起業家やメンターによる強力なネットワーク、バイオテクノロジー企業の運営に精通したスタッフによるサポートで構成されています。BioLabs センターは、北米の主要なイノベーションハブに位置し、パリとドイツのハイデルベルグにも拠点があります。

三井不動産株式会社について

三井不動産は、街づくりを通じて社会課題の解決に挑戦し、新たな価値を創っていく総合デベロッパーです。柏の葉スマートシティは国内屈指のアカデミアや医療施設が集まる知の集積地であり、「三井リンクラボ柏の葉 1」、国立がん研究センター東病院の敷地内に立地するがん患者さんをサポートするホテル「三井ガーデンホテル柏の葉パークサイド」の他、オフィス・商業施設・実証モビリティフィールドなど、さまざまな施設が賑わいを生み出しています。公民学連携で、スタートアップや大学の技術を活用した実証実験にも積極的に取り組んでいます。(柏の葉スマートシティ: <https://www.kashiwanoha-smartcity.com/>)

注意事項(アステラス製薬)

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。